ウメモト インフォメーション

２０２2年　３　月　２　日　　担当　小松

ドバイ原油・2日午前、上昇　105.30ドル前後

原油でアジア市場の指標となる中東産ドバイ原油のスポット価格は2日午前、上昇した。取引の中心となる5月渡しは1バレル105.30ドル前後と前日に比べ8.40ドル高い水準で推移している。

引用記事　日経新聞

ウメモト インフォメーション

2022年　3　月　2　日　　担当　小松

NY商品、原油が続伸　一時7年8カ月ぶり106ドル台
ロシア産原油の供給懸念で

【NQNニューヨーク=川上純平】1日のニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場は大幅に続伸した。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）で期近の4月物は前日比7.69ドル（8.0%）高の1バレル103.41ドルで取引を終えた。一時は106.78ドルと2014年6月以来の高値を付けた。ウクライナ情勢の緊迫が続き、ロシア産の原油や天然ガスの供給が滞るとの見方から買いが集まった。

ロシア軍のミサイルなどによる攻撃はウクライナの一般市民に対しても無差別に広がっていると伝わっている。ロシア軍の長蛇の車列が首都キエフに接近しているとの報道もあり、一段の攻防の激化が予想されている。カナダがロシア産原油の輸入を禁止するなど、欧米諸国とロシアの関係悪化が原油需給の引き締まりにつながるとの見方が強まった。

国際エネルギー機関（IEA）は1日、加盟国が備蓄している石油を計6000万バレル協調放出すると発表した。ただ、原油価格を抑えるのに十分な量ではないとの見方から、発表後も相場の上昇は続いた。

ニューヨーク金先物相場は続伸した。ニューヨーク商品取引所（COMEX）で取引の中心である4月物は前日比43.1ドル（2.3%）高の1トロイオンス1943.8ドルで取引を終えた。ウクライナ情勢の緊迫が続き、逃避資金の受け皿となりやすい金先物は買いが優勢だった。

引用記事　日経新聞

ウメモト インフォメーション

２０２2年　３　月　２　日　　担当　小松

原油先物・北海ブレント107ドル台　7年8カ月ぶり高値

【ロンドン=篠崎健太】1日のロンドン市場で原油先物相場が急伸した。国際指標の北海ブレント原油先物の5月物は一時1バレル107ドル台後半まで上昇し、期近物としては2014年7月以来約7年8カ月ぶりの高値水準をつけた。産油国ロシアのウクライナ侵攻で供給が滞る懸念が根強く、激しい戦闘の継続も伝わるなか買いが勢いづいた。

値上がりはロンドン時間午後（日本時間2日未明）に加速し、前日の清算値からの上げ幅は9.6ドルまで広がった。ニューヨーク市場ではWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）の期近4月物が一時11ドル強上げ、1バレル106ドル台に乗せて14年6月以来の高値水準をつけた。

日本や米国など国際エネルギー機関（IEA）加盟国は1日、石油備蓄計6000万バレルを協調放出すると発表したが、需給緩和の材料とみる反応は鈍かった。原油相場は決定が伝わった直後こそ伸び悩んだがすぐに買いが巻き返し、北海ブレントとWTIともに上げ幅を4ドル以上広げる展開になった。

引用記事　　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０２２年　３　月　２　日　　担当　小松

菜種油7%高　22年1～3月、原料値上がり・円安を転嫁

マーガリンなどに使う菜種油の1～3月期の大口価格が一段と上昇した。前期（2021年10～12月期）に比べ7%高い。菜種の国際価格の高止まりや品質低下による搾油効率の悪化を背景に、製油各社の値上げが浸透した。菜種はロシアとウクライナから一定の輸出があり、ロシアの軍事侵攻でさらに高くなる可能性がある。菜種油の先高観は強く、様々な食品の値上げ要因になる。

大口取引価格は四半期ごとに、製油各社と加工油脂各社が穀物相場などを踏まえて交渉する。このほど決まった菜種油の価格は1キロ384.5円。前期に比べ25円上昇した。値上がりは6四半期連続。

1～3月価格の参考になった21年10～12月のインターコンチネンタル取引所のウィニペグ菜種先物（期近）は、1トン1000カナダドル前後の最高値圏で推移した。世界最大の菜種輸出国カナダで、産地が高温乾燥に見舞われ21～22年度の減産がほぼ確定した。カナダ統計局や米農務省によると生産量は1260万トンと、前年度から35%ほど落ち込む見通しだ。

品質の低下もコストの押し上げ要因だ。菜種の種子に含まれる油分が減り、歩留まりが悪化した。「記録的な低油分で、菜種油コストのさらなる上昇が見込まれる」（J―オイルミルズ）。為替の円安・ドル高も調達価格を押し上げた。

マーガリンやマヨネーズといった加工品の需要も底堅い。農林水産省の油糧生産実績調査によると、菜種油の21年の生産量は20年を上回った。

製油会社は当初、菜種高で転嫁しきれなかった分や歩留まりの低下を考慮し1キロ30～40円（10%）ほどの値上げを目指していたとみられる。菜種油は過去1年で110円（44%）上昇している。大幅な値上げに需要家の抵抗は強く、上げ幅を圧縮して折り合った。

ロシアによるウクライナ侵攻で先高観が出ている。両国の菜種の生産量の世界シェアは約7%で、輸出量でみると17%ほどを占める。ウクライナの港湾機能の停止やロシアへの経済制裁で供給が止まるリスクもある。

ロシアが軍事侵攻した2月24日、ウィニペグ菜種先物は一時1トン1103カナダドルと史上最高値をつけた。その後も1000ドル超で高止まりする。フジトミ証券の斎藤和彦チーフアナリストは「ウクライナ情勢が菜種相場の上昇に影響している」と話す。

日本は大半をカナダから輸入する。原料の調達に直接の支障はなさそうだが、国際市場の需給が引き締まれば、仕入れ価格の上昇につながる。

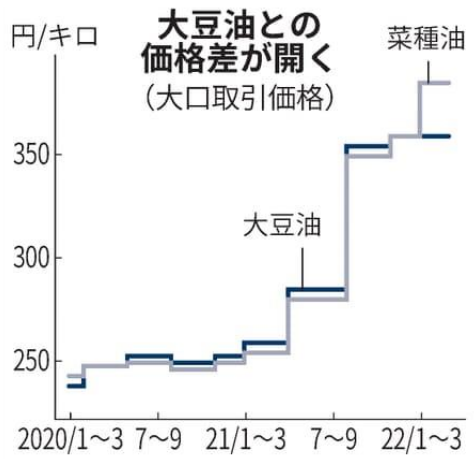
菜種と並ぶ主力食用油である大豆油は、1～3月の大口価格が1キロ359円（中心値）と、前期と同水準で決まった。

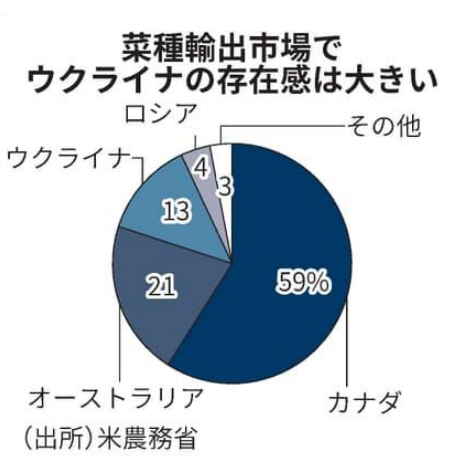
米シカゴ商品取引所の大豆先物（期近）は21年5月から11月ごろまで下落基調だった。ある加工油脂会社によると「菜種油の値上げを受け入れる代わりに、大豆油の据え置きを求める動きもあった」という。

大豆の国際価格も南米の減産観測を受け、上昇基調に転じている。4～6月分の大豆油は値上がりする可能性がある。

原材料高を受け日清オイリオグループは2月に家庭用、業務用、加工用の食用油を4月納入分から1キロ40円以上値上げすると発表した。

キユーピーも1日出荷分から、家庭用と業務用のマヨネーズやドレッシングなどを値上げする方針だ。春以降、消費者の負担感が一段と高まりそうだ。





引用記事　　**日経新聞**

ウメモト インフォメーション

２０22年　３　月　２　日　　担当　小松

米などIEA加盟国、備蓄石油6000万バレル協調放出で合意

［東京／ワシントン／ロンドン　１日　ロイター］ - 国際エネルギー機関（ＩＥＡ）に加盟する米国などは１日、ロシアのウクライナ侵攻を受けた供給途絶に対応するため、備蓄石油６０００万バレルを協調放出することで合意した。

ＩＥＡの臨時閣僚会合を受けた。米エネルギー省によると、放出量の半分は米国が担う。

米ホワイトハウスのサキ報道官は声明文で、「（ロシアの）プーチン大統領の行動に伴う世界のエネルギー供給の混乱を抑えるために、あらゆるツールを用いる用意がある」と表明。「また、ロシア以外からのエネルギー供給の多様化を促進し、ロシアによる石油とガスの兵器化から世界を守るための努力も続ける」とした。

ＩＥＡのビロル事務局長は、エネルギー市場の現状は「非常に深刻であり、われわれは注視する必要がある」と指摘。声明文で「世界のエネルギー安全保障が脅かされており、回復が脆弱な段階の世界経済はリスクにさらされている」と付け加えた。声明文によると、加盟国は必要に応じてさらに備蓄を活用することを検討するという。

日本の萩生田光一経済産業相によると、協調放出における各国の具体的な割合は近日中に決定する。また、ＩＥＡ加盟国の一部はウクライナに石油化学製品を提供することに同意したという。

ＩＥＡによると、６０００万バレルは加盟国が保有する緊急備蓄１５億バレルの４％に相当する。

ＯＡＮＤＡのシニア市場アナリストであるCraig Erlam氏は「備蓄放出は注目に値するが、（これまでの流れを大きく変える）ゲームチェンジャーのようなものとは見られていない。世界有数の産油国が関与する危機の政治的リスクプレミアムはあまりにも高すぎる」と語った。